



ROR1による肺腺癌のリネジ特異的生存シグナル伝達機構の解明

ROR1, a transcriptional target of TTF-1/NKX2-1 oncogene, sustains lineage-survival signaling in lung adenocarcinoma

日時：2018年6月22日（金） 17:30～

場所：研究棟B 2階 共同会議室



熊本大学大学院生命科学研究部
がん生物学分野 独立准教授

山口 知也 先生

山口 知也博士は、これまでタンパク質キナーゼや低分子量Gタンパク質を介するシグナル伝達研究を行い、最近では肺がんの発生・進展の分子機構についての研究や臨床応用に向けた研究において目覚ましい成果をあげている新進気鋭の若手研究者です。特に、肺腺がんの生存に関わるRor1の機能についての成果は、国内外で高く評価され注目を集めています。文部科学省卓越研究員、さきがけ研究員（兼任）に採用され、一昨年からは熊本大学大学院生命科学研究部において研究室を主宰し、多角的にがん研究を展開されております。

今回、肺腺がんにおけるRor1の機能についての最新の知見などホットなトピックをご紹介します。ご参集のほどよろしくお願いいたします。

参考文献：

Nat. Commun. 7: 10060, 2016; Cancer Sci. 107: 155, 2016;

Carcinogenesis 35: 2224, 2014; Cancer Cell 21: 348, 2012; EMBO J. 31: 481, 2012、他

担当：細胞生理学分野 南康博（内線：5561）

主催：シグナル伝達医学研究展開センター

連絡先：研究支援課研究企画係

内線：5195 / MAIL: k9shien@med.kobe-u.ac.jp